□には、リンクがあります。※は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム　あんきな家　※
日付	平成19年3月31日
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
	評価調査員　ケアセンター介護支援専門員経験5年
	評価調査員　在宅介護経験9年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る（改善状況のコメントがあります！）※

外部評価の結果

講評

全体を通して（特に良いと思われる点など）

特筆すべきは、利用者同士の助け合いと明るさ。Aさんがテーブルを拭く。それを見た他の利用者はすぐ「手伝おうか？」と言う。「いや、お客さんでおってよ。ここへは働きに来たんじゃないから、皆で楽しゅう座っとりゃあええよ」とAさんは笑って答える。昼食のサラダを残した人に皆が声をかける。「美味しいよ、食べてごらん」「トマト買うたら高いんよ」「皆も食べたよ、栄養あるよ」お互いに仲間を気にして、あなた大丈夫？の気持ちを持っている。それは共同作業の真田編みでも発揮されている。真田編みは昔は麦わら帽子の手作業で盛んだった手法だが、ここでは広告の紙を利用して作っている。紙をテープ状に切り、四つ折にし、ひも状にして編み上げ、籠や物入れに成形しラッカーやニスを塗って仕上げる。できた作品は丈夫で重量感もあり素晴らしい。利用者は自分の出来る事を分業し、それぞれの分野で大活躍。「この人の仕事の速い事、まあ、見て！」と管理者に言われ、「そんな事ないわ」と言いながら、Bさんは慣れた手つきで紙を四つ折りにしていく。「いや、やっぱり手つきが違う、この人は手八丁、口八丁だわ」皆に誉められ、Bさんはどんどんスピードアップして皆で大笑い。作品を見て真田編みに興味を持つ家族も多い。ある家族は手弁当で一日かかって作品を仕上げて帰ったそうだ。皆で一つの事に取り組むのは楽しい。そしてその作品が評価されると自信に繋がる。こうして利用者同士の助け合いが明るさに結びついていく。

ホーム全体にのびやかで、活気のある雰囲気が漂っていた

特に改善の余地があると思われる点　　次のような提案をした

① 地理的要因もあり、地域との交流は難しいが、運営推進委員会をきっかけに、その糸口が見つかりつつある。少しずつホームを分かってもらえるよう気長に取り組んで欲しい。老人会との付き合いでも出来れば楽しそうだ。今後に期待している。

②「今年は家族同士の横の繋がりが出来るようにしたい」との管理者の言葉は心強い。家族参加の花見を企画中と聞いた。欲を言えば、お客様として家族を招待するのでなく、共に利用者を支える協力者として手伝ってもらうよう働きかけると、もっと良い。ホームに預けたから安心ではなく、家族も一緒に関わっていく意識を持ってもらう事は大切だと思う。家族の面会も多いと聞いたので、きっと良い方向に向かうだろう。頑張って欲しい。

Ⅰ 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	

記述項目　グループホームとしてめざしているものは何か

「その人らしく生きてもらいたい。だから出来る事は遠慮なく手伝ってもらい、今いる場所がなるべく我が家に近い状態にしたい。言葉遣いも普通にしてその人その人に合わせた個別ケアを目指している」と管理者は言う。家では自分の部屋に名札なんてないから、ホームでも名札は止めた。中年男性職員はお父さん、管理者はお母さん、若い職員達は孫、ホームで飼っている小型犬は曾孫の様に、皆で祖父母の利用者を支えている。「家よりもホームに居る方がリラックスする」と職員同士で話すそうだ。スタッフが楽しく仕事が出来るホームは、利用者にとっても居心地が良い。「これだけの人数じゃ、面白おかしゅう暮らさんと！」くったくのない利用者の笑顔が印象的だった。

Ⅱ 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	

記述項目　入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

利用者は1階と2階の居室で、4人と5人に別れている。1階リビングにはソファ、2階にはコタツがあり、それぞれテレビ等見ながらのんびり過ごしている。4～5人で食卓を囲むと、会話もよく聞こえ、互いの表情もよく分かり、ますます普通の家庭に近い気がする。調理と入浴は1階なので、上と下の交流もある。エレベーターはあるが食事を運ぶくらいで、利用者はなるべく階段を使うようにしている。ホームへ来て、殆んどの利用者は階段の昇降で足腰が強くなった。杖がいらなくなるほど、歩行がしっかりしたそうだ。職員は上と下に空間が分かれ大変だろうと思うが、「その場の雰囲気で上や下へ行けて気分が変わるし、時には逃げ場になっていいんです」と前向きに捉え、2階建ての造りを上手に活用している。

Ⅲケアサービス

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

Ⅲ ケアサービス（つづき）

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	

記述項目　一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

「あなた、せっかく来たんだから覚えて帰りなさいよ」車椅子の婦人がわざわざ自分の部屋から折りかけの紙を持って来て教えてくれる。折り紙の花とごみ入れ。「私もここは来て覚えたの。便利よ！見本にこれ持って帰りなさいよ。これ見たら作り方分かるから」その表情は生き生きとして、とても楽しそう。「これも私が作ったの、いいわよ」首に巻いたスカーフを外して見せてくれる。2枚のハンカチを縫い合わせて繋いでいる。結ぶと左右の模様が違って、とてもお洒落。「私の部屋来て見て」はにかみながら誘ってくれる人もいた。ドアには手作りのパッチワークの額が掛かっている。布で貝殻を包んで作ったお雛様が箪笥の上に置いてある。千代紙を貼って作った小物入れの中からはビーズ手芸のネックレス。「職員の人に教えてもらって作った。こんな事自分でも出来るとは思わなかった」と誇らしげ。このホームでは手作業を上手く取り入れている。

Ⅳ 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	

記述項目　サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

「ルビーちゃん、ばあちゃんと散歩いこうか」Cさんは一人で犬と散歩に出る。ホーム周辺は洋風の家や和風の家が立ち並び住宅地のようだ。この一つ一つが全て同一母体法人のグループホームだ。一人で散歩に出ても、全体の見守りが行き届いているので安心だ。ホームは認知症の取り組みで有名な母体病院やその関連施設と同じ敷地内にあり、周辺一帯が一つの村になっている。村の中ではそれぞれの交流もあり、利用者は多くの人に会えるし出ても行ける。しかし、急な坂道を登る人里離れた立地条件の為、一般地域からは隔離された別世界になりがちだ。近隣の住民が畑で取れた野菜を持って気軽に来れる環境ではない。先駆者ならではの良さと問題が交錯する中、利用者・管理者・職員・ルビーの4世代同居の家での穏やかな時間が流れている。理想に向かっての取り組みに期待している。